



現代版の植民地主義 VS 明治維新

先週、農業・農政問題について講演を行った際、会場から「TPPは環太平洋地域を南米化するものだ」との意見が出された。筆者もこの見解に異存はなく、南米の多くの国ではアメリカの傀儡政権が樹立され、徹底的な搾取と民衆の抑圧が続いている。TPPのねらいについて御託が並べられてはいるが、要はアメリカの国益確保がすべてであり、自由貿易を盾に参加国から半永久的に利益を搾り取る経済構造をビルトインしようとするものである。まさに現代版の植民地主義がその本質だ▼政府よるTPP影響試算では、総額で三・二兆円の増加を見込んでいるものの、輸出二・六兆円の増加に対して、輸入増二・九兆円とこれを上回る。低価格の農産物輸入増を中心に消費の増加三・〇兆円を期待するハリボテの中身で、トータルでのTPP加入のメリットはないことをさらけ出している。あからさまな特定産業の輸出確保のための農業切り捨てでしかない▼にもかかわらず安倍首相がTPPに執心するのは日米軍事同盟を最優先するがゆえ。アメリカからの提案に、そもそもノーというカードは持ちあわせていない、と理解せざるを得ない▼欧米列強による植民地争奪が繰り広げられる中、これに対抗・参入して富国強兵・殖産興業を推し進めてきたのが明治維新である。国力増強の一方で、日清・日露、太平洋戦争を招き敗戦を結果した。今、TPPに集团的自衛権、さらには原発再稼働、憲法九条改正の動き。安倍政権は、確実にリスクを高めつつあり、日本のいつか来た道を着実に歩み始めている。

(土着菌)